

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成24年度 第6回 川西市都市計画審議会専門委員会 (川西市都市計画マスタープラン検討委員会)		
事務局 (担当課)	都市整備部 まちづくり推進室 都市計画課		
開催期日	平成24年11月27日(火)		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	澤木・松村・岡・水野・山本(信)・駒井・山本(眞)	
	関係人		
	事務局	竹田・萩倉・茨木・前田・堀内・八尾・池田・植村・廣瀬	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
会議次第	議 題 (1) 検討事項 都市計画マスタープラン検討案について(全編)		
会議結果	(1) 検討事項 別紙のとおり検討されました。		

第6回川西市都市計画マスタープラン検討委員会

日時：平成24年11月27日(火)19~21時
場所：川西市役所4F 庁議室

1.序章～第3章について

序章のタイトルについて。「都市計画を取り巻く社会的背景」についてとあるが、中身を見ると「都市計画マスタープランの改定にあたって」くらいの方が良いのではないかと。

そのようなタイトルに修正を行う。

P2の図中に「即す」や「整合」といった表現が出てくるが、一般市民向けではない。

都市計画法でも用いられている言葉であり、事務局としてはこの表現でいきたい。

他都市の計画でも同様の表現がよく用いられている。事務局が言ったように法律でも使われている表現であり、なかなか平易な表現には変えづらいということだと思う。同ページの上方の文書中にも使われており、そことあわせて読んで頂ければ理解は促されるのではないかと。

P20について。以前も言ったかもしれないが、まちづくりの目標の説明文が一般的すぎると思う。「川西能勢口が～にぎわいのある状態」「公共施設が不足する地域での開発を抑制する状態」など少し踏み込んだ具体的な書きぶりにして欲しかった。今のままだと他都市でも使えるような表現だと思う。やはり踏み込んで書けない理由があるのだろうか。

そのご指摘は非常に検討が困難であったところでもある。山本委員から頂いた意見については、やや将来イメージが先んじており、文章化することにより、将来的な乖離が危惧されるところがある。

そのため、もう少し抽象的な表現が妥当と判断した。

都市計画マスタープランそのものが総合的な都市のまちづくり方針を示すものであることから、あまり具体的なイメージを想起させる内容を書きにくい、その結果、住民に書いた通りの姿になることを危惧しているということだと思う。

山本委員から頂いた意見に関しては、「川西らしさが伝わらない」「(長期的にみて)都市計画マスタープランで書くべき範囲を超えている部分がある」という点が明らかになった。

例えば、頂いた意見の中身に類するキーワードは文章中にも見受けられるので、該当箇所にアンダーラインをひいて、より目標像が伝わるような工夫はできるかもしれない。

また、「～な状態」という表現については、進行管理を行う上での指標として扱えば良いのではないかと個人的には感じており、事前に事務局にもその意見を伝えている。そういう方向で前向きに検討していただければと思う。

ただいまの委員長の意見を受けて検討したい。

図面のなかの都市計画道路の表記について、(都)は必要か。また、道路名称そのものがこんなに必要なのか。

都市計画道路でも国道などは国道 号という一般向けの表記を使っているが、それ以外は県道等と明確に区分したいので(都)を入れている。

また、道路の数については実はもっと細かいものあり、これでも一部省略はしている。今後の事業と絡むものなど、必要と思われる路線についてピックアップしているのでこのまま残したい。

P20に低炭素まちづくり計画があり、先ほどの話をうかがうと画期的な計画という印象を受けた。もう少しPRする意味でも上の方に記載してはどうか。

この位置については、今くらいがちょうど良いかと思う。先ほども言ったようにまだまだ先行きが見えないところも多々ある。しかし、潜在的な可能性は秘めている。集約型都市構造につながるステップアップのツールとして有効的な計画になると個人的には期待している。

この計画は市としては中央北地区だけが対象か。

委員としては全市を対象とした計画となることを期待していたが、総花的になるということから重点

的に中央北地区を対象とした計画とする方向になった。

P1の写真は市役所の写真で良いのか。市が責任をもって取り組むというPRの意味も含むのであればこれで良いと思うが、そういう意図がないのであれば市の俯瞰写真とかが妥当か。

ご指摘のような意図も含んでいるのでこの写真でいきたい。

2. 第4章～第6章について

P79の「地域を知る」「きっかけをつくる」「制度で担保する」のなかの記述について。「通しで」とあるが「通して」の間違いだと思うので修正を。また、「醸成」や「担保」という表現が一般市民にとってはなじみがない表現だと思うので平易な表現に変えられないか。

「醸成」は「育てる」、「担保」は「制度面で支える」といった表現ではどうか。

そのような方向で修正する。

都市基盤という言葉が本編のあちこちに出てくる。しかしカッコ書きの中の例示(道路や上下水道など)に統一感がないのではないか。

分野別方針などで掲載される箇所によって多少の使いわけがあるのではないか。一応、事務局の方でチェックをお願いしたい。あと、都市基盤ではなく、都市基盤施設とする方が望ましいのであわせて修正をお願いしたい。

P32の表について。「年 月現在」という表記は要らないか。

ご指摘のとおり表記する。

同表での並び順の意味はあるのか。

地区計画の策定順であり、上が古く、下が新しいものとなっている。

P57の市街地整備について、「隣接する～箕面市側の道路」についての記述があるが、分野別の道路関係の箇所には一言も拳がってこない。ここに唐突に記載されるのは違和感があるのだが。

舎羅林山の開発については、元々住宅系用途で開発許可が下りているが、現状はかなり厳しい状況にある。そのため、流通系用途も想定した見直しが検討されており、そういう用途も受け入れると考えた場合、現在の一路線だけのアクセスでは心もとないという意見が庁内からも拳がった。そういう諸処の事情を考慮してここに記載している。

P68の最下行で、「低炭素まちづくり計画を活用した」とあるが、「計画を活用」という表現は不適當ではないか。

この計画策定に関わっているものとしては、この表現は残して頂きたい。この分野についてはまだ法律が出来上がったばかりで、正直、将来的にどう転ぶか分からない状況にある。そのため、計画を使って何かをしたいという思いがある。まだまだ新しい分野であるので、この計画を使ってどのような事ができるかを検討しながら...という意味も含んでいる。

担当課からもこの計画名称は入れて欲しいという強い要望があった。どういう表現にするかは再度、担当課と確認させて頂く。

P70やP75の図中に中央北地区など赤四角で囲んでいるところがあるが特別な意味があるのか。あるのであれば注釈を。

特にはないので他と同様の表現とする。

P80の市民の取り組みのイメージの記載内容について、目標の順番とリンクしていると思うが、ずれている箇所がみうけられるので合わせた方が良い。

修正する。

P46の都市防災の方針図について。これはどこからか引用してきたのか。どういう意味が良くわからない。

確かに関係性がよくわからない。それぞれの箱のポジショニングの意味が不明。

現行の都市計画マスタープランから継承したが、確かに意味が伝わりにくい。担当課と確認して修正する方向で検討したい。

P57の写真などもう少し特徴的な写真を入れても良いのではないかと。大和団地の夢ナリエの写真とか。どういふ写真が良いかは最終的に確認・調整を行うこととする。

3. その他

本編全般に欄外に注釈があるが、基本的には用語説明だと認識している。しかし、P33では経緯等が含まれており、どちらかというところラム的な印象をうける。整理が必要ではないか。

ご指摘の箇所については、確かに他と異なるのでラム的な扱いとする。

最終的に写真の配置、大きさなどの整理はするのか。

全体的な体裁はデザインとあわせて行う予定である。

グラフや図、写真がたくさん入って全体的に分かりやすくなったのは非常に良かった。

最終的な成果物となる際には、索引はつけるのか。図や写真のナンバリングなどはどうするのか。

検討する。

お願いではないが、表紙に能勢電らしきイラストはあるのに阪急バスがないのがさびしい。本当はバスも入れて欲しかった。

バスのイラストについては手描きなので無理のない範囲で追加修正が可能かどうか作成していただいた学生に確認してみる。

いくつか宿題も出たが、最後の委員会ということもあり、基本的には委員長あずかりということで事務局と最終調整をさせていただく。昨年からの長期にわたり、色々ご議論いただきお疲れ様でした。